オホーツクの植物　西田達郎・辻井達一　著
郷土の植物観察の手引　鹿追町立瓜幕中学校　編集
北海道の森林植物図鑑　草花編　北海道国土緑化推進委員会　編集
北海道の花　鮫島惇一郎・辻井達一　著
十勝の植物　十勝教育研究所　編集
浦幌の主な野草　浦幌町教育研究所　編集

# 浦幌新四国八十八ヶ所について(上)

新宮　廣

「浦幌新四国八十八ヶ所」は、昭和36年(1961)5月に、東山公園内の浦幌神社の南側から山頂に至る遊歩道に沿って安置された。

その後、同48年（1973）、浦幌一静内線町道の改良工事に伴って現在地へ移設して現在に至っている。

その建立の経過は、昭和35年4月、発願者河内治作が、ある日、逝去した妻の夢を見て、四国八十八ヶ所の仏像の安置を志し、浄福寺（浦幌町字本町）住職北元哲誠に相談して、その安置に加え旧墓地の無縁仏をまつり、戦没者の英霊を慰め、この地一帯を「東山公園」として一大荘厳の地域として多くの方々の憩いの場とし、且つ霊場を参拝され、あまねく仏と弘法大師の恩恵を身に受け、清らかな温かい精神で社会に尽くすよう、特に青少年の情操的、健全育成の場にしようと町有地借用請願書を町に提出。その快諾を得て、橋本栄吉、石田武をはじめ、各地区の有志とともに全町を遍歴して、協賛者と浄財を集め、「四国新八十八ヶ所霊場建設委員会」を設置して、滝川市の美術家山崎鶴吉に彫刻を依頼して作製されたものである。

この霊場入口には、「浦幌新四国八十八ヶ所霊場」の碑が建ち、広場には管理と憩いの場の建物、その両側に仏像建立の趣旨の像と橋本栄吉・トモエ施主の詩碑があって、正面には発願飯山真佐吉建立の弘法大師像に続いて107体の仏像が安置されている。

昭和36年5月21日完成と同時に建設委員会は解散し、「浦幌新四国八十八ヶ所奉賛会」を設置して、同年6月25日、関係者並びに来賓多数参列のもとに開眼式を挙行してその完成を祝い、以来毎年5月21日（弘法大師の命日）に山開き、10月21日には山終いを行ってきた。

●浦幌新四国八十八ヶ所霊場

所在地　浦幌町字東山町（東山公園内）
建立年月日　昭和36年5月
碑の総高　189cm

## 旨趣の立建像佛

昭和三十五年四月本町の河内治作翁或日の事逝去した愛妻の夢を見て四国八十八ヶ所の佛像の安置を志し之れを浦幌町高砂会会長浄福寺住職北元啓誠氏に相談し茲に快諾を得て浦幌町長吉川利昌氏に町有地借用請願書提出町議会の協賛を得て建立の運びとなったのであるが最初の意志に加ふるに数名の人々の協力を以て東山公園とし更に旧墓地の無縁佛をまつり戦没者の英霊を慰め更に東山公園をして一大荘厳なる地域となさんとするものである而し乍らその建立の費用は誠に莫大なものがあって容易ならず即ちそこで発願の本人は勿論橋本栄吉石田武等各部落の有志と共に全町を遍歴協賛を求め浄財を集め一年余の歳月を経て完成を見たのであるがこれが作者滝川市の住人の石工山崎鶴吉氏は現代稀に見る美術家でありこの作にあたって現地に見る他の特志者と同じく本霊場のために盡されたのであるこれ等の霊場を参拝せられあまねく佛と弘法大師の恩恵を身に受け清らかな温かき精神の持主となって社会に尽すことの出来る青少年が一人でも多く得られるならば望外の願成就と云へよう

合掌

佛像建立の碑文

●佛像建立の碑
所　在　地　浦幌町字東山町（東山公園内）
建立年月日　昭和36年５月21日
碑の総高　199cm

●功徳碑
所　在　地　浦幌町字東山町（東山公園内）
建立年月日　昭和36年５月
碑の総高　156cm

●弘法大師
所　在　地　浦幌町字東山町（東山公園内）
建立年月日　昭和36年５月
碑の総高　390cm
補記　台座の正面に題字、その向かって左横に「発願　飯山真佐吉／昭和三十六年五月建之」と刻されてある。

●第一番　釈迦如来
本町　佐藤利男
トシエ
故　アキ
故　源吉

PL. 1　佛像建立の碑

PL. 2　功徳碑

PL. 3　弘法大師

PL. 4　第一番　釈迦如来

PL. 5　薬師如来

PL. 6　第二番　阿弥陀如来

●薬師如来
常豊　河内甚作
次雄
●第二番　阿弥陀如来
本町　河内治作
故　なつ
貞市
●不動明王
浦幌町　込山カナメ
●阿弥陀如来
施主　今野雅夫
チエ子
故　千代吉　大正二年十二月十九日
故　きよの　昭和二十年八月二十日
故　巌　昭和三十九年十一月十八日
故　美野枝　昭和二十二年十一月一日
故　正男　昭和十九年六月十二日戦死
故　稔　昭和二十四年九月二十二日
故　サチ子　昭和十七年八月二十八日
故　弘文　昭和二十九年四月一日
●第三番　釈迦如来
本町　飛田辰次郎
いく
●第四番　大日如来
本町　元木千代
喜代
●第五番　地蔵菩薩
厚内　平野サカ
村上利子
●第六番　薬師如来
緑町　宮部徳市
フサノ
隆
政江
●第七番　阿弥陀如来
福山　清水清光
信光
信子
故　うめの
●阿弥陀如来
帯富　山岸ますの
故　由三郎
●第八番　千手観世音
本町　米沢喜義
●第九番　釈迦如来
本町　畠山　潔
テル
故　省子
●第十番　千手観世音
本町　下天摩重郎
ハナヨ
●第十一番　薬師如来
末広町　田村シゲ
ゆき

PL. 7 不動明王

PL. 8 阿弥陀如来

PL. 9 第三番 釈迦如来

●第十二番　虚空蔵菩薩
本町　河内唯晃
一恵
常喜

●虚空蔵菩薩
宝町　斉川秋正
シズ子

●第十三番　十一面観世音
寿町　福沢ハツ
故　源太郎

●第十四番　弥勒菩薩
帯富　元木喜太郎

●第十五番　薬師如来
常豊　藤川只夫
故　留造
故　セキ
故　勝博

●第十六番　千手観世音
常室　石森正
ツカ

PL.10　第四番　大日如来

PL.11　第五番　地蔵菩薩

PL.12　第六番　薬師如来

PL.13　第七番　阿弥陀如来

PL.14　阿弥陀如来

PL.15　第八番　千手観世音

興吉
正浩

●第十七番　薬師如来
帯富　富名トヨ

●第十八番　薬師如来
本町　加藤誠治
土本秀夫

●第十九番　地蔵菩薩
帯富　池田信太
故　喜美恵

●第二十番　地蔵菩薩
福山　橋本喜義
ハル
故　伊太郎
故　ユキ

●第二十一番　虚空蔵菩薩
留真　山川善右ヱ門
よし

●虚空蔵菩薩
寿町　木谷ソトヱ
故　長七
敏
芙栄子
愛子

●第二十二番　薬師如来
本町　上谷内幸作
ちよ

●第二十三番　薬師如来
帯富　岡崎重太郎
みさを
故　弥三郎

●第二十四番　虚空蔵菩薩
緑町　石山シチ
仁三
なを
故　忠作

●第二十五番　地蔵菩薩
新町　井下慶一
晴恵

●大日如来
万年　飯山高市
キク
祐敏
美智子

●第二十六番　薬師如来
栄町　橋本行雄
たまき
栄光
友子
祐子

●第二十七番　十一面観世音
寿町　川西マツヨ
故　喜平
故　春実

PL. 16　第九番　釈迦如来

PL. 17　第十番　千手観世音

PL. 18　第十一番　薬師如来

●第二十八番　大日如来
栄町　橋本栄吉
トモヱ
●第二十九番　千手観世音
厚内　長尾信太郎
●第三十番　阿弥陀如来
稲穂　田中勇
タマ
●阿弥陀如来
常豊　高井弥助

マサ
ツル
正一
玉栄
故　徳次郎
●第三十一番　文珠菩薩
末広町　稲垣豊平
美里
●阿弥陀如来
円山　川畑義雄

PL. 19　第十二番　虚空蔵菩薩

PL. 20　虚空蔵菩薩

PL. 21　第十三番　十一面観世音

PL. 22　第十四番　弥勒菩薩

PL. 23　第十五番　薬師如来

PL. 24　千手観世音

PL. 25　第十七番　薬師如来

PL. 26　第十八番　薬師如来

PL. 27　第十九番　地蔵菩薩

PL. 28　第二十番　地蔵菩薩

PL. 29　第二十一番　虚空蔵菩薩

PL. 30　虚　空　蔵　菩　薩

●第三十二番　十一面観世音
十勝太　八木勝雄
フヨ

●第三十三番　薬師如来
桜町　今村與一
ツルヨ
故　伝三郎
故　広志
いとの
洋子

●第三十四番　薬師如来
十勝太　八木サダ
故　八木勝宏

●第三十五番　薬師如来
帯富　大井義春
故　古川與吉郎
故　勝友
故　りよ

●第三十六番　不動明王
栄町　小野寺倉之助

PL. 31　第二十二番　薬師如来

PL. 32　第二十三番　薬師如来

PL. 33　第二十四番　虚空蔵菩薩

PL. 34　第二十五番　地蔵菩薩

PL. 35　大　日　如　来

PL. 36　第二十六番　薬師如来

みつえ
故　キヨミ
故　重　利

●阿　弥　陀　如　来
末広町　木　下　徳　松
芳　子
久　尾

(つづく)

１９９３年２月１６日　印　刷
１９９３年２月２０日　発　行
編　集　後藤秀彦
発行責任者　石川安次
発行所　浦幌町郷土博物館（089-56）
北海道十勝郡浦幌町字東山町23番地の１
印刷所　大同出版紙業株式会社（080）
北海道帯広市西７条南６丁目